

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー
--------------------

### ②評価調査者研修修了番号

SK2019004
SK15017
01-006

### ③施設名等

名称：	米沢市立興望館
施設長氏名：	館長 森下 誠
定員：	30名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	米沢市太田町四丁目1-153
T E L：	0238-38-6109
U R L：	<a href="https://narusimaen.org/?page_id=100">https://narusimaen.org/?page_id=100</a>
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1949/6/20
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人緑成会、米沢市
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の数：	7名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（エ）	調理師
上記有資格職員の数：	6名
有資格職員の名称（オ）	公認心理師
上記有資格職員の数：	2名
有資格職員の名称（カ）	臨床心理士
上記有資格職員の数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	2人部屋5室 3人部屋3室 4人部屋1室 和室8畳1室 11畳1室
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

### ④理念・基本方針

<p><b>【理念】</b> 「人が人として尊厳をもって 地域や家庭の中で 自立した生活が送れるよう支援いたします」</p> <p><b>【基本方針】</b> 法人理念に基づき、次の基本方針により事業を遂行する</p> <p>1. サービスの基本方針 地域の要保護者が、住み慣れた地域で、健全で安全・安心な生活が送れるよう、地域福祉の拠点としての機能を果たし、質の高い多様な福祉・介護サービスの提供を目指す。</p> <p>2. 人材の基本方針 法人の職員は、福祉・介護サービスの基本的理念の下、社会福祉法・介護保険法・老人福祉法・児童福祉法等、関係法令に基づき、自らの仕事に誇りと自信を持ち、常に想像力・応用力に富んだ福祉・介護理論を実践展開できる資質の高い職員を目指す。</p> <p>3. 経営の基本方針 法人理念を基調（思想・行動の根底となるもの）として、常に収支バランスを見据え、時間、エネルギー、人材などの物理量と合わせたコスト意識及び経費削減の意識を一人ひとりが認識するとともにこれを実践し、事業の継続と安定・成長を目指す。</p>
---

### ⑤施設の特徴的な取組

1. 社会情勢の変化に伴い、社会的養護が必要な子どもも多様・複雑になっている。当施設においては、30名定員の大舎制で、ハード面での整備は進められてはいないが、法人の基本理念及び児童福祉法、児童憲章の精神を遵守し、子どもの健全な成長と権利を保障し、安心・安全な環境の中で、愛情を持って適切な支援を行っている。
2. 職員は豊かな心と柔軟な思考・意欲を培うため、自主研修と法人内外の研修をとおし、研鑽を積んでいる。各職種間連携、チームワークを重視した支援を心掛けています。SV（スーパーバイザー）配置も9年目になり、事例検討、専門性の向上のための講義等アドバイスを受け、支援に活かしている。興望館ではSST（ソーシャルスキルトレーニング）に力を入れており、各年齢構成に応じたセカンドステップ、サードステップを施設全体で行っている。
3. 子ども一人ひとりの発達、生活能力、成育歴を把握し、自立支援計画、月ごとの目標立案、評価により一貫性のある計画的な援助に努めている。
4. 個々の関わりを重視し、日々の生活の中での支援をとおし、子ども達の人間力を育てている。思春期や反抗期、自分を見失いがちなところを寄り添い、子ども一人ひとりの自己実現に向け、その自立を支援している。
5. 第三者機関による評価を受け、支援のあり方を外部の目からも精査する。

### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/8/17
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/12/21
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

### ⑦総評

#### ☆特に評価の高い点

#### 1. 子どもの自主性の尊重について

全員での児童自治会では上級生の意見が優先してしまいがちなので、年代別児童自治会に変更したところ多様な意見・要望が多く出るようになり、行事計画にも活かされています。芋煮会やバーベキューでは自ら役割を担い協力し合う姿が見られるようになり、共有部分の掃除や部屋の整理整頓も自らの役割として取り組んでいます。新型コロナウイルス対策については、子ども自身から出たアイデアで玄関から廊下の動線の区分けがなされ帰館時の手洗いがスムーズになっています。そうした中で一人ひとりが頑張った事を（皆勤賞など）、年2回館長名で表彰し廊下にも掲示され、励みと意欲の向上に繋がっています。

#### 2. 子どもの人権を尊重した養育・支援の取組について

職員は倫理綱領にもとづいた基本的人権への共通理解を図り、人権擁護・人権侵害の禁止・性的虐待防止・対応のためのチェックリストを年4回実施して振り返り、不適切な関わりがなかったか、また職員同士でも注意しあえる環境を整備しています。子どもには自分も他人もかけがえのない存在で一人ひとり権利を持っていることを「権利ノート」等も使いながら説明しています。アンケートや意見箱の設置も行っており、担当者が中心となって毎月子どもから聴き取りをしています。直接館長に話に来る子どももおり、職員との壁がなく信頼関係が伺えます。小規模化・地域分散化のハード面については市の予算等もあり実現が難しい状況ですが、できるだけ子どもの要望に沿って、カーテンで仕切って個人の空間を作り、また兄弟一緒に部屋割りにするなど家庭に近い環境整備に努めています。このような取り組みから、職員と子どもとの信頼関係ができ、虐待やいじめを予防する養育・支援が行われ、子どもの権利が守られています。

#### 3. 心理的ケアの取組について

虐待や不適切な環境で成育を受けてきた子ども、発達障害を持っている子どもが多く入所しているため、安定した生活環境を整え、心身の落ち着きが持てるよう、職員は各年齢に応じた心理的ケアの一環として（ソーシャルスキルトレーニング）を年代別に継続的に実施しています。遊びのスキル、相互理解、問題解決の仕方などの項目に沿って、生活をしていく上での人との関わり方を学習しています。我慢しないで自分の気持ちを表すこと、怒りをコントロールできる力を養うなどのトレーニングを積み重ねることにより、自己表現ができ、暴力による解決をしないという社会性が身につく問題行動の減少に結びついています。

#### ☆改善が求められる点

#### 1. 性教育について

施設の性教育は学校と連携を図り、施設内でも紙芝居などを利用して進められていますが、情報化社会の中にあり子どもはスマホやネットなどで色々なことを目にする機会が多くなっています。職員は性教育のあり方について検討し、性をめぐる諸課題に取り組まれるよう期待します。

### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

平成29年以来3年ぶりに第三者評価を受審し、日々の社会的養護が必要な子ども達に対する支援、施設運営に対し、多角的、客観的な視点での評価をして頂くことで、自分たちの今までの振り返りとこれから取り組むべき課題を知る良い機会となりました。

高い評価をいただいた項目については、「これでいい」と満足せず、子どもと向き合い、一緒に歩み、成長していくことを基本に、更なる向上を目指します。

また今回の受審で明らかになった課題、子ども達への利用者調査の結果、評価の中で自分たちが気づいた点についても精査し、改善に向け施設全体で取り組んでいきます。

今回の第三者評価結果をフィードバックし、生かすことで、子ども一人一人の安心・安全な生活、自立支援、幸せに繋げて行きます。また時代に合わせた新たな支援の形、「進化」、「専門性」を模索、実践していきたいと思えます。

### ⑨第三者評価結果（別紙）

# 自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

## 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】		
法人理念と施設独自の倫理綱領を職員会議や支援会議の場で朗唱し、常に職員の規範としている。さらに玄関に掲示し、保護者には興望館だよりと一緒に郵送して理解を得ている。		

### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	
【コメント】		
施設長は県の児童養護施設協議会副会長としての役割を担っている。常に社会福祉の動向の把握や情報の収集を行い自施設の経営状況を分析し、市や法人と連携を図っている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	
【コメント】		
市・法人と一体となり課題を明確にし経営状況の分析を行っており、職員にも説明し共有している。市の指定管理を受けており施設の修繕やグラウンド整備が検討されている。施設前のブロック塀の改修が行われ子どもの安全に配慮されている。		

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>平成30年度を初年度として法人の中・長期経営計画が策定され、長期10年、中期6年の長いスパンで将来像と到達目標を掲げ、さらに3年の短期経営計画を定め2クール目に入り目標達成にむけた取組を実践中である。</p>	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>法人は高齢者福祉が主な事業であり、児童養護施設は措置機関なので制度上の違いがあり同じにいかない面もあるが、単年度計画は施設独自の事業計画を策定して市・法人と相談し承認を得て進めている。</p>	
<p>(2) 事業計画が適切に策定されている。</p> <p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>事業計画については職員の意見も取り入れ組織的に作成し全員に周知している。設置者である市とは話し合いを重ねているが施設の小規模化に向けた改修は当面難しい状況にあるため、家庭に近い環境づくりに努力し事業計画の職員への理解を図っている。</p>	
<p>② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p>	

行事計画作成には年代別自治会の中で子どもの意見を取り入れ、買い物や旅行、映画鑑賞などの要望に応じている。月毎に食堂に計画を掲示しており子どもたちの楽しみにしている姿が見られる。保護者には郵送して知らせ協力を得ている。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	<p>8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。</p>	a
【コメント】		
法人として中・長期経営計画のなかに人材育成を上げており、エルダー制度を導入し新人教育に力を入れている。職員は能力向上計画書に目標を掲げ、法人代表や館長と面接・指導を受け、人事考課制度にも反映されるなど目標管理の仕組みが構築されている。		
②	<p>9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
職員一人ひとりの自己評価、組織としての自己評価、第三者評価の結果について課題の検討・改善・見直しを図り全職員で共有するサイクルが機能している。		



## II 施設の運営管理

### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	a
【コメント】		
施設長は自らの役割と責任を明確にして業務分掌に明記している。市・法人とは緊密に連携し市には指定管理のための自己評価を挙げており、毎月報告に行き理解を深めている。施設長は経験が豊富で、職員は現場で直面する悩みなどを気軽に相談ができる環境にあり、指導力を発揮し信頼関係を構築している。		
②	<p>11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。</p>	a
【コメント】		
施設長は全国の動向にアンテナを高くし、新しい情報や法改正についてはミーティング時に伝達事項としてプリントアウトし共有している。急ぎのものは回覧等で周知しコンプライアンス(法令遵守)教育を徹底している。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	<p>12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。</p>	a
【コメント】		
施設長は多くの知識や経験を基に日々の養育・支援について職員からの相談対応や指導にあたっている。職員資質向上のための外部研修に参加してその後の伝達研修も充実したものになっている。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	b
【コメント】		
専門職の人材雇用が難しい状況だが、夜勤専門職員や臨時職員(パート)を雇用することで保育士が子どもに余裕をもって関わることができている。高齢者の雇用では子どもに年長者を気遣うやさしさが生まれている。		

## 2 福祉人材の確保・育成

	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。 <input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。 <input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 <input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。 (5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	b
【コメント】		
職員採用や人事管理は法人で一括しており現在の人員体制はおおよそ満たしているが、余剰人員は取れていない。子どもの支援を充実させるためにも、心理療法士の増員・保育士採用は当初から正職員となるよう、法人への働きかけや労働条件などを社会保険労務士に相談していることから今後の取組に期待したい。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。 <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。 <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	b
【コメント】		
「期待している職員像」については目指す法人像を法人で明記している。人事考課制度を導入しており、職員の意向は施設長と面談を行い一次(館長補佐)・二次(館長)・法人での評価を得て処遇にも反映され、将来を描ける仕組みができている。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

シフトの希望は職員から聞き取って勤務表に反映させ、有給休暇・産休・育休・看護休暇など取得しやすい環境に配慮している。悩みなどは各部門で相談できる体制を整備し、労災や心身の健康面を本部の方に毎月報告を行い産業医のアドバイスを受けている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

全職員が個別能力向上計画書に一年間の目標を掲げ、館長と面談を行い一人ひとりが目標に向け取り組んでいる。新人研修にエルダー制度を導入し、きめ細かな指導を行っている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

年度はじめに年間研修計画書を策定し、外部研修へは階層別などの習熟度に応じて積極的に参加している。内部研修にも力を入れ、全職員が出席し事例検討会や外部講師を招いて心理的ケアの勉強会を実施している。今年度はコロナ禍でオンラインによる外部講師のアドバイスを業務に反映させている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	



<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

年間研修計画に沿って全職員が受講できる体制を整え、希望もあり自主性を大切に参加している。研修後の復命書を提出し報告会や伝達研修で共有を図り、スキルアップに繋げている。個人ごとの研修履歴を作成し評価を行い次回の研修に繋いでいる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

実習生受入れマニュアルを整備し、担当職員を中心に保育士・社会福祉士・里親(登録前の方)の受入れを実施している。今年度、他施設のプログラムを参考にして5~10年を見据え大幅な内容の見直しを行っている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【コメント】	
ホームページや法人の広報紙に理念・事業計画を明記し、施設独自で興望館だよりを作成して関係機関・保護者に配布している。写真の掲載についてはプライバシーに配慮し保護者の同意を得て使用している。	
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	

外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。

【コメント】

税理士が毎月訪問し、会計・財務などに関するチェックや指導を受けアドバイスに従い、業務に活かし透明性を図り適切な運営に努めている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/>学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>地区内外からも行事へ参加の声がけがあり、子どもと積極的に出かけ交流を図っている。また、個別に子どものニーズに応じボランティアによる買い物支援を利用している。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>ボランティア受入れマニュアルの整備や受入れ窓口を設置し実施している。遊びのボランティアは近県から来館しており、学習では大学生や元教員の方に来てもらっている。長年来てもらっているボランティアの方と子どもとの信頼関係が築かれ学力向上に繋がっている。</p>	

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

様々な関係機関と連携を図り、学校には年度当初に館長・館長補佐があいさつ回りを行い施設と学校の連絡協議会を開催している。学校からの案内は保護者に知らせ、保護者と共に授業参観や行事に参加している。課題がある子どもはケース検討会を実施し、情報は全職員へ周知して質の高い養育・支援に取り組んでいる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	

【コメント】

施設長は地区民生委員の推薦会委員になっており、推薦会の開催時に地元関係者と地域の子どもの話などコミュニケーションを図り交流している。市の子ども課から虐待などの情報や地域のニーズを得ている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

施設行事の運動会後の芋煮会には町内会会長や民生委員・同学校の先生方に参加してもらっている。今年度はコロナ禍のため施設内に於いて子どもだけで開催している。伝統的に続いている地域貢献活動として小学生を中心に施設付近のごみ拾いを年に5回ほど実施している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施  
1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	<p>28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	a
【コメント】		
職員会議の中で理念・職員倫理綱領の読み合わせを行い意識向上を図っている。全職員が人権擁護・人権侵害防止のためのチェックリスト(全国児童養護施設協議会)で3ヶ月ごとに点検を実施し、不適切な対応にならないよう徹底している。問題があった時は、できるだけ子ども同士で解決できるようにして職員の一方的な関わりにならないよう留意している。		
②	<p>29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。</p>	b
【コメント】		
プライバシー保護に関して職員倫理綱領の中に明記され、職員会議で周知し人権侵害防止のためのチェックリストでも点検を行い遵守している。子どもの入浴は個別に行いプライバシーに配慮している。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
①	<p>30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	a
【コメント】		
施設についての資料は、保護者向け、子ども向けのパンフレットを自作している他、法人のホームページで概要を公開している。パンフレットは、変更がある場合は内容を更新し、写真を新しいものに差し替えるなど見直している。見学に対応している他、施設から一時保護所に向いて子どもに直接面会し説明を行っている。		



②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

養育・支援等の開始にあたって、子どもが安心するよう写真をたくさん使ったわかりやすい子ども向けパンフレットで説明している。支援の過程では、施設での生活について、イラストを用い工夫したルールブックを提供している。保護者に対しては入所時の様々な書式を整え同意を得ている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更、地域・家庭への移行にあたっては、関係機関が集まり検討会議を開いて協議している。退所後の児童についてフェイスシート・アフターケア記録を整備し、担当者を決めて、悩みを相談できる体制をとっている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

児童自治会を年代別に3つに分け、毎月職員も参加し開催している。子どもの意見を聴取し要望に対してできることは早めに回答し、できないものは説明を加え回答するなど真摯に対応している。子ども参画の仕組みができており、行事の内容に反映する等養育・支援の具体的な改善に繋げている。



(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決の体制を整備しており、保護者にも周知している。法人の第三者委員が年1回定期的に委員会を開いている。苦情にまで至らない内容の要望についても委員会に提示し、組織的に検討する機会を設けている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

児童自治会を年代別にしたこと、年少の子どもが意見を述べやすくなり、改善することができている。意見箱を設けているが、個別の相談や話したい時には、担当職員や他の職員に直接話すことが多く、館長にも要望などがあり、職員室や館長室も意見聴取の場に活用している。この他、心理面接でも気持ちを話し相談することができている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

児童自治会で意見の把握に努め、記録様式によって報告し、対応の手順を定めている。意見に対して担当者の他各部署で話し合い、館長がコメントし理由を加えて回答する等誠実に対応している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	<p>37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
各種マニュアルを整備し、避難訓練を毎月実施している。リスクに関する報告は都度集約し、ひとつのファイルにまとめるよう改善している。事故発生時だけでなくインシデント(ヒヤリハット)についても職員同士引継ぎを行い、類似の事案が起こっても事故に至らないように予防に取り組んでいる。		
②	<p>38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。</p>	a
【コメント】		
感染症対策マニュアルを整備し予防策を講じて、感染症が発生した場合の拡大防止策にも努めている。新型コロナウイルス感染症に対していち早く取組み、独自のマニュアルを作成して、子ども主導の感染防止の活動も見られる。		
③	<p>39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p>	a
【コメント】		
建物の耐震性やハザードマップによる災害時の安全性が確認されている。災害、火災などを想定し月1回の訓練を実施している。子どもの外出時の安否確認については、おおよその時間や場所、誰と会うかなどを記録に残し、新型コロナウイルス感染症対策にも活用できる方法を定めている。		

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
<p>① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	b
<p>【コメント】 最新のマニュアル等を整理し職員が各自一冊のファイルを持ち、共通理解を図り、子どもの問題行動に対してもこれに沿って対応することとしている。人権擁護・人権侵害防止のチェックリストを用い、職員が定期的に実施し館長が確認している。</p>	
<p>② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	b
<p>【コメント】 主任以上の職員で年4回話し合いを持ち見直している。長期的には、子どもの様子、社会の変化に合わせ、周期的に時代に合わないところを変更し改定記録を残している。職員の意向を反映し若手の意見も会議で聞くように努めている。</p>	
<p>(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。</p> <p>① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。</p>	b
<p>【コメント】 入所時は児童相談所のアセスメントを参考に、施設独自のアセスメントを行っている。個々の自立支援計画は、学校の意向もふまえ、心理担当職員、指導主任、館長の確認をへて、担当者を中心に策定している。保護者の意向は常に家庭支援専門相談員が調整している。</p>	

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画は年間目標を半期ごとに見直し目標を変えていく仕組みとしている。毎月、子どもに聞き取り、職員全員が参加する支援会議を行い、目標と課題について話し合っている。計画を受けて支援を実践し、支援会議で検証・評価して次の計画に反映するサイクルとなっている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

職員間で必要な情報を共有するため、日誌に記録し毎日2回の引継ぎを行っている。記録はほとんどパソコンで入力し、施設内ネットワークによるシステムを構築し、情報共有の仕組みが整備されている。記入方法を工夫したり、記録する際の観点について研修を行い記録方法の統一を図っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

市の指定管理の規程に従うとともに、法人の規程に基づいて管理している。パソコンはパスワードを設定し、職員のネットワークは子どもが使用するwi-fi回線と別に設けられており、細心の注意を払っている。子どもの個人情報の取り扱いについて、入所時に保護者に文書で確認をとっている。



内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>法人理念・倫理綱領を定め朗唱し、いかなる場面においても子どもの権利が守られることを確認し周知している。職員は全国児童養護施設協議会の人権擁護チェックリストで定期的に評価し、人権擁護・人権侵害の防止と早期発見に努めている。</p>	
<p>(2) 権利について理解を促す取組</p> <p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちは虐待やネグレクトなどの不適切な環境で育ってきた子どもが多く、心のケアが必要であり心理療法とソーシャルスキルトレーニング(対人関係についてのトレーニング)に力を入れ職員が担当している。自らの気持ちの表出や怒りのコントロール、問題解決する力など年間を通したプログラムを実践し効果を上げている。節目ごとに行われるご褒美会は子どもたちの楽しみと励みになっている。</p>	
<p>(3) 生き立ちを振り返る取組</p> <p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>子どもの成長の記録は、一人ひとりのアルバムに収めいつでも見られるようにしている。児童相談所や保護者の協力も得ながら自分を振り返ることができるように取組み、退所していく子どもに写真をデジタル化して渡すことなども検討している。</p>	
<p>(4) 被措置児童等虐待の防止等</p>	



①	<p>A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>体罰や不適切なかかわり(暴力、大格的等傷、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	b
---	--	---

【コメント】

被措置児童等虐待マニュアルに沿い、職員は常に児童との関わり方について確認し全職員で共有している。暴力などの行為が見られた場合は男性職員に代わり距離を取る場面もあり、担当職員2名体制で互いにフォローし合い行き過ぎた行為がないよう養育にあたっている。問題が生じた場合は第三者委員を定め氏名は知らせているが電話は法人経由としている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	<p>A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。</p>	a
---	---	---

【コメント】

児童自治会を年代別に分けたことで今までよりも多くの意見が出るようになり、月1回意見要望書を作成し対応している。行事や生活のきまりごとなど様々な意見があり実行に移されており、またできないことは納得のいく丁寧な説明で理解を得ている。新型コロナ感染症対策についても子ども自身で考えた事を職員も一緒に実践している。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

児童相談所からのアセスメントシート、さらに施設で作成したアセスメントシートで職員は共有している。入所時の不安に配慮し手作りのパンフレットで館内の様子や生活の案内をし、見学等も実施している。受入れ側の子どもには館長から紹介があり仲良くしていけるよう配慮している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

退所を控えた高校生には社会人向けのSSTを実施して役所の手続きや問い合わせの仕方、性に関することといった生活の知識やルールなども学んでいる。自立のためのハンドブックをスマホでいつでも確認できるように検討しており、ラインでの相談体制は構築している。職員の指導を受けながら自立支援室での一人暮らし体験は社会に出るための貴重な学びになっている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>虐待や心理的に不安を抱えてきた子どもの心に寄り添い、職員は受容することから始めている。問題行動には障がい担当職員が主になり、館長・館長補佐が職員一人ひとりの面接で意見を聞き、ロールプレイなどで研修を重ね問題行動に対応している。ケアの記録・指導の記録は職員間で共有できており、自立支援計画に反映している。</p>	
<p>② A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>「生活のきまり」は文書化したものを掲示し、また興望館規則（携帯版）の冊子を配布し指導している。建物（個室化）については必ずしも子どもたちの要望に応えられないが、基本的欲求については満足が得られるよう職員全員で見守り愛情をもって養育・支援にあっている。自立支援のためのハンドブックを山形県児童養護施設協議会で作成しており興望館をはじめ県内5施設の利用に繋がっている。</p>	
<p>③ A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は必要以上の指示や制止をしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p> <p><input type="checkbox"/>朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>施設行事の運動会では子どもの意見を取り入れ、芋煮会では盛り付けなどは子どもが主体となり開催している。登校が中々困難だった子どもが一日も休まず皆勤賞をもらったり、また高校への電車通学では職員が早朝出勤して同行して電車の乗り方を指導し、一人で通学できるようになり自信に繋がっている。</p>	

④	A11 発達の状態に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状態、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

年齢幅があるがコロナ禍の中で一緒に過ごし、上級生が下級生や幼児の面倒を見るなど優しい場面が見られている。時代のニーズに合わせ専用のwi-fi回線も子どもの意向で設置しておりルールを決めて使用し、職員は小・中学生のゲーム機のソフトもリスト化して、高校生のスマホアプリも記録し管理している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状態に応じ、身体健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状態に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

ごみの分別や食後の片付けでは食器洗いも子どもが行っている。夏休みには神社の花植えやラジオ体操に参加し、地域社会へ積極的に出かけている。清掃ボランティアでは住民から感謝の声があり子どもの励みになっている。職員は日常の振る舞いや言葉遣いなどは子どもの手本となるよう心がけている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

献立は旬の食材や国産のものにこだわり、伝統食なども取り入れ作成している。子ども全員が同じメニューだが分量で調整し、年代別グループごとに美味しく食している風景が見られる。高校生は弁当を自分で詰め、副食としてパンの持参や受験生には夜食を提供し楽しみにしながら勉学に励んでいる。嗜好調査を行い要望の多いメニューや誕生日には特別なメニューを取り入れ喜びに繋げている。夏休みには子ども自身で食事作りにも挑戦している。



(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

子ども一人ひとりの好みなど個性を大切に、サイズや季節を考慮しながら小・中学生は職員と一緒に出かけ衣服を購入している。被服費の年間予算があり、枚数や購入金額は担当職員が把握している。洗濯は小学4年生から自分でネットに入れて出し、整理・整頓は各自が行っている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

大舎制で個室では無いが複数の兄弟もおり、縦割りを優先させ関係性を考慮して部屋割りをを行い、カーテンで仕切りをするなど個人の空間を持てるようにしている。食堂など平日の掃除はパート職員が行い、共用部分は土・日曜日子どもと職員が行っている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

入院する子どもはいないが、通院や服薬する子どもも多く精神薬は保護者の同意を得て、健康診断・予防接種は嘱託医協力のもと実施している。コロナ禍にあり職員は日々のきめ細かい健康観察に努め、子どもは新しい生活様式がすっかり身に付いている。

(6) 性に関する教育



①	A17 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

外部講師を招いたり、ソーシャルスキルトレーニングや山形県児童養護施設協議会が作成した紙芝居を利用し知識を得る機会を設けており、施設には職員がそれぞれ世代別にいることでよい面もあるが、子どもの状態が多様化しているため今後の取組に期待したい。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	

【コメント】

障がいにより不適切な行動をとる子どももおり、問題行動が起きた場合はクールダウンしてもらい、同性の職員が聞き取りを行い関係機関と連携しスピーディーな対応に努めている。子どもへの毎月の聞き取りや心理療法を行うことで問題行動も減少している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていく。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	

【コメント】

様式に基づき、子どもに毎月聞き取りを行っている。いじめや差別と受け取れる場合は、支援会議で情報共有し対応を検討している。年長の子どもが年少の子どもに命令することが起こらないように、部屋割りを検討し、兄弟を中心とするなど工夫している。これらの取組によって、いじめや差別は減少していると感じている。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。 <input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。 <input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。 <input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。 <input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	a
---	--	---

【コメント】

心理的な支援は、心理担当職員にほとんどの子どもを心理面接してもらい子どもの担当者と情報が共有されている。重い障がいをもつ子どもについて、月1回のカンファレンスを行い予想される課題に対応している。施設全体としてソーシャルスキルトレーニングに力を入れ、年代毎に週1回継続実施している。スーパーバイズを受けられる体制を整え、指導をうけている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。 <input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。 <input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。 <input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。 <input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	b
---	---	---

【コメント】

小学生にはみんなで一緒に勉強する部屋、中高生には自室に個別の机を整備している。時間の制限はあるが、インターネットで調べものができる環境を整えている。基礎学力をつけるため、担当者や指導員が勉強を教えている。子どもの希望や学習支援を必要とする子どもに、学習塾や学習ボランティアを活用している。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。 <input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。 <input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。 <input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証入確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。 <input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。 <input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。 <input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。 <input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	b
---	---	---

【コメント】

進路について保護者に常に情報を提供するようにしている。子どものやりたいこと、夢を叶える方法を全職員で考え、様々な可能性を提示できるよう努めている。高校1年生の時から人生設計をたて、目標に向けて支援している。進路決定にあたり支援制度を丁寧に説明し、子どもの希望を最大限に生かした選択となるよう支援している。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
---	--	---

<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】

高校卒業後の自立を見据え、学校からの職場実習や職場体験に取り組んでいる。アルバイトは学校の許可を得て実施しており、社会勉強を積んでいる。運転免許資格は助成を得てほとんどの子どもが取得している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。	
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	

【コメント】

家庭支援相談員が子どもや保護者の要望に丁寧に対応し、「親と一緒に」という言葉を大事に関わっている。行事の都度家族に施設に来てもらっているが、家庭によっては施設側が働きかけて保護者に足を運んでもらうよう支援している。

(11) 親子関係の再構築支援

① A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	

【コメント】

子どもが家に帰りたいという思いを發した時や、年齢的タイミングを見ながら児童相談所の助言を得て、家庭復帰に向けて大きな目標をたて段階的に取り組んでいる。戻り先の地域や関係機関とケース会議をもち連携を図っている。